

アクナ マタータ（ケニヤ雑感）

佐々木 孝 雄

ケニヤは野生動物がいっぱいで、広大なサバンナがそこいら中に広がっているすばらしい国だ。そして当然のことながらそこにいる人間には彼らの日常があり、彼らなりの生活がある。

ムワンギはイラクの大学で地質を学んだ変わり種だ。ケニヤの地質屋のなかでは中堅どころのかれは、無類の世話好き話好きで（ついでにビールも大好きで）、頼まれたらいやとは言わないちょっと日本人的な男である。世界一高い山はヒマラヤで二番目はキリマンジャロだと信じている。地質調査で田舎の小学校の校庭にキャンプしたときに調査中にテントが盗まれないかと聞くと「No, but elephant is dangerous」と答えた。なぜならば調査している屋間に泥棒が来ても生徒が見つけてくれるので問題ないが、象が校庭に入りこんできたらテントはあっという間に踏み潰されてしまうからだそうだ。

半砂漠化した草原で露頭を叩いていると「ユー ガーリー（自動車） ブルルル

ル」と言う奴がいる。振り替えると槍を持ったマサイ族の男が立っていた。強烈な格好をしているのに驚いたが、にやにやしているのは私と話したいらしい。ふと見ると自転車を持っているではないか。槍をもってどうやって自転車に乗るのかなどと見ぶり手振りで話をしていたら、写真が欲しい、ぜひ撮ってくれと言う。よし、できたら送るから住所を教えろと言うと住所ってなんだと言われて困ってしまった。

後にこのことをケニヤの連中に話して「マサイの勇士と言えども自転車に乗ることもあるんだな」と言ったら、「自動車にだって乗るさ」と真顔で答えた。

調査中の人夫を雇う部落には噂を聞いて雇われに来た者の以外にもオレンジ売りなんかも集まってくるようになる。何人かいるオレンジ売りの中でなかなかうまいオレンジを売る男がいた。明日もくれば大量に買うぞと言ったら必ず来ると言う。しかし翌日の引き上げの時間にも彼は現われなかった。部落の連中に彼は今日は来ないの

かと聞くと「He is cominng」と言う。何でここに居るのに彼が来るのが判るのかと聞くと「But, he is realy cominng」と言う。この感覚にはなかなかついていけない。

表題の言葉はスワヒリ語で英語の「No problem」に当たるようだ。すなわち万事これで大丈夫と言うぐらいの意味になり、なんともいえずケニヤらしい言葉として覚えている次第です。

(住鉦コンサルタント(株))

